

旅立たれたと聞きました。仏壇の前で滝川さんは、美智子さんが最後まで貫いた「生きること」への強い意志について話してくれました。

生前は好き嫌がなく、滝川さんの手料理を「おいしい、おいしい」と喜んで食べていたという美智子さん。病気で食が細くなつてからも、食べたいものを伝える意欲を持ち続けたそうです。

「お医者様に『家で作った料理を食べさせたい』と相談し、スープやミキサー食を自宅で用意して食べさせ、病院での食のリハビリを重ねた結果、固形食を口にするまでに回復したんです。『食べられた』と本人が一番うれしそうで、家族も感動したものです」と振り返ります。そして「義母が身をもつて教えてくれたのは『生きることは食べること』という生きざまでした」と、最後まで寄り添い続けたその言葉には、食を通じて命と向き合った家族の強い絆を感じずにはいられません。美智子さんのご冥福を、心からお祈りします。



いつも忙しく活動している滝川さん



水神さんを守るようにそびえるムクの木



小池秋永地区にたたずむ水神さん



令和8年熊本地震発災からおよそ2カ月。普段の暮らしを取り戻しつつある一方で、未だ地震の爪痕が残るご家庭もあります。

それでも、前を向いて歩む人々の暮らしと、変わらぬにそこにある地域の温もりを訪ねて。今回は、小池秋永・下原を巡りました。

## 二人でいつちよ!? 共に百歳まで

「なんさま、たまがったね」、「もう、いつときや、地震は来んと思つとったけんね」と、再会して開口一番にそう話す森川護さんと征子さん夫婦。

発災時、歩いて帰宅中だった護さんは自宅敷地の入り口で、突然の揺れに襲われ、転倒。腕を骨折するというアクシデントに見舞われました。それでも「年寄りにしちや、治りの早かごたる」と笑い飛ばすポジティブさは健在です。

前回の散歩では、小池秋永地区で生まれ育



今回も楽しい話を聞かせてくれた森川さん夫婦と、ひ孫の絢音ちゃん

った幼なじみのお二人のなれ初めを紹介したところ反響を呼びました。

「二人でおると、誰んかれん(誰もかれも)『相方はどぎゃんしたつな?』て聞かすもん。だけん、いつもピタッと離れんでおつたい」と笑う護さん。すると征子さんも「畑に野菜ばかり行つただけでん『護さんな?』て尋ねらすとたい。私たち

## 生きることは 食えること 義母が教えた生きざま

散歩の再会、第二弾は、いつも精力的に活動している滝川朋子さんを訪ねました。

変わらない元気な笑顔で迎えてくれた滝川さんですが、2年前のこの散歩で、共に温かい笑顔を見せてくださった義母の美智子さんが、昨年94歳で

令和6(2024)年10月号で掲載した、滝川さんと美智子さんの仲の良さを写した写真をあらためてご紹介します。



2年前、楽しくおしゃべりを交わした亡き美智子さん(右)との思い出のカット

## どっちつかずの下原は どっちとも仲良し

現在30戸ほどが暮らす下原地区。小池秋永地区と同じく、行政区の一つとして数えられています。

「もともと下原は、小池秋永地区と古くから行事などを一緒にやってきました。ばってん、距離が近いのは隣の東無田地区。『どっちつかずの下原』なんて言われますばってん、どっちとも仲良くできるのが下原の良さです」と話すのは、原



原口さんの、亡き夫の剛さんとのトルコ旅行の一枚

口晶子さんです。

原口さんは20歳の若さで、嘉島町から農家を営む原口家に嫁いできました。若い頃から海外旅行が大好きで、訪れた国は数知れず。「一人で旅行しよつたら、自然と主人もついて来るようになって」と笑いながら、2年前に91歳で亡くなつた夫の剛さんと訪れたという、思い出深いトルコ旅行の写真集を見せられました。

そこには、訪れた場所の歴史や建造物の解説も丁寧に貼付けてあり、旅への情熱が伝わってきます。「主人の写真が少ないのは、ず



原口さんの手作りの布小物



穏やかな口調で話してくれた原口さん

つとカメラ担当だったから」と懐かしそうに目を細めます。

そんな原口さんの現在の楽しみは、東無田地区の女性で結成された「絆の会」の集まり。「皆さんとおしゃべりしながら、小物や帽子、洋服などを作っていると、あつという間に時間が過ぎてしまうんです」と言つて作品を見せてくれました。

「作つたそばから、娘や友だちが『これ、ちょうだい!』って持ち帰つてしまうけん、手元にはあんまり残つたらんとですよ」とうれしそうな笑顔を見せました。

や、二人でいつちよ(一つ)とだろねつ」とうなずき合います。

そんな森川家には最近、意外な来訪者も。「イノシシの来つとたい。こるが人慣れしとつて、おてちいた(落ち着いた)もん。家のいん(犬)も吠えんもん。『こつちゃんけえ(こつちにおいで)』て言うと、しつぽ振つて来つとたい」と話す護さんの隣で征子さんは「悪さばせんとかよばつてんね」と少し心配顔。

そんなお二人の元気の秘訣は「なつたけ(なるべく)動くこつ(事)」、「行かるつところによ、どけでん行くこつ」、「なんさま、しゃべるこつ」だとか。そろって90歳目前のおしどり夫婦の目標は「共に百歳まで」。根っからの明るさとパワーで百歳はもちろん、その先もむつまじく過ごされること請け合いです。